

2020 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

| | | | | | |
|----|-------|----|-----|----|----------|
| 氏名 | 高橋 甲枝 | 職名 | 准教授 | 学位 | 修士 (看護学) |
|----|-------|----|-----|----|----------|

| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
|--|--|
| 急性期・回復期の技術教育 初年次教育 がん看護 運動器疾患を持つ患者の看護 | <ul style="list-style-type: none"> ・ シミュレーション教育 ・ 初年次教育 ・ 乳がん患者の就業支援 ・ 運動器疾患を持つ患者の QOL |

| 研究課題 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ がん患者の就労支援ニーズについて、協力病院からの患者紹介のもと調査を実施する。 ・ 笹月准教授を中心に看護・福祉・栄養学科の学生のプロフェッショナリズム形成に関する調査研究のために、インタビュー結果の検討を行っており、今後、学生を対象に調査を行う予定である。 ・ 急性期看護技術教育の一環として、ストーマ造設した学生の学びを明らかにする。 ・ 初年次教育の効果を経時的に検討する。 |

| 担当授業科目 |
|--|
| 初年次セミナー I (前期) 成人看護学演習 (前期) 健康教育論 (前期) 看護総合演習 (前期) 看護総合実習 (前期) 初年次セミナー II (後期) 成人急性期看護方法論 (後期) 成人急性期看護学実習 (後期) 救急・クリティカルケア看護学演習 (後期) |

| 授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項) |
|---|
| 授業科目名【初年次セミナー I】前期 15 コマ, 30 時間 ①科目担当者 5 名で約 21 名の学生を担当した。 遠隔授業となったことで、学生の Wi-Fi 環境の確認調査を実施し、教員間で共有を行った。 講義前には講義内容の確認を、講義後には学生の姿勢や達成状況などについて意見交換を行った。 ②また、学生が講義内容を充分把握した上でゼミ活動を行うことができるよう、授業進行にそって講義責任者が、学生全員を対象に講義概要を説明した。その後、ゼミ別にゼミ担当教員が学生指導を行った。 ③スタディスキルの習得をより図るためミニレポート・レポート作成に取り組んだ。提示する課題についても検討を加えた。また、昨年の課題であった文献引用・文献記載法の指導を強化した。 ④ミニレポート・グループワーク・ポートフォリオについては、評価視点を明確にするため評価表の修正改善を行った。 ⑤昨年同様、情報収集の方法について情報課および図書課と連携し実践を通し学生の学びを深めた。例年は図書館へ行き調べるという課題を設けていたが、今年度は CiNii、GoogleScholar の使用方法を中心に説明を加えた。 |
| 授業科目名【成人看護学演習】前期 30 コマ, 60 時間 遠隔授業 成人看護学演習は、看護過程と看護技術の演習である。3 年前期に看護過程演習および看護技術演習を行っている。急性期事例 (胃がん)、慢性期事例 (肝硬変) の 2 例を展開した。 グループワーク人数を 4 名とし、個人ワークを行い、グループワークに反映するようにした。グループワークは小グループのクラスルームでグループワークができるようにした。本年度は中間試験を取り入れた |

が、看護過程を理解できていない人のフォローを行うように試みたが、遠隔での試験はパソコンが苦手な学生もおり、不満が聞かれた。明らかに理解ができていない学生のフォローはできたと考える。

看護技術演習は、食事療法、血糖・インスリン、術食後の観察と援助と報告の演習を行った。遠隔授業となったことで、実践を行うことができなくなったため、実施する根拠の修得を目指してプログラムの修正を行った。また、自宅にあるものを代用してイメージ化を図った。

ストーマ造設した患者の看護については、事前にパウチなどを郵送して、遠隔授業下で患者体験を行った。

授業科目名【健康教育論】前期7コマ、15時間 遠隔授業

健康教育論は、科目担当者2名で講義・個人ワーク（パンフレット作成）、発表をとおして、健康教育、患者教育の学びを共有した。

ヘルスプロモーションの定義および行動変容について解説を行った。パンフレット作成および発表に対してコメントをとおして患者指導の必要性について説明を行った。

授業科目名【看護総合演習】通年 15コマ、30時間

看護総合演習では、7名の学生を担当し、遠隔授業にて行った。

「急性期看護学実習」で受け持った患者をもとに課題を見だし、文献検討、ケースレポートを論文形式にそって作成した。作成したレポートをもとに発表抄録作成、パワーポイントを用いた発表を行い、他者評価・自己評価を行うことができていた。

授業科目名【看護総合実習】通年 10日間（対面実習）

看護総合実習では、「急性期領域」「慢性期領域」「看護技術領域」の学生35名を対象に行った。そのうち7名を担当し、事前に肺を切除する患者事例のアセスメント、看護計画の立案をもとに下記の技術演習を行った。

輸液管理、呼吸管理、循環器の検査、血糖・インスリン注射指導、BLS講習、褥瘡予防、挿管の介助（吸引・口腔ケア、標準予防策）について事前課題を行い、それぞれの技術実践を行った。最後に学びの発表を行った。

基本的な技術の修得と既習の知識の確認を行い、実践の根拠と技術習得を目指した。

授業科目名【初年次セミナーⅡ】後期15コマ、30時間 8回目より遠隔授業を行った。

主担当として、シラバス作成、シート作成、シラバスに相当する評価表の作成と運営を行った。

- ①初年次セミナーⅡでは、初年次セミナーⅠで学修した基礎的知識・スタディスキルズの強化を図り、プレゼンテーションの機会を設けた。特に看護学科ではこれから学修する専門科目の基盤として「書く」「考える」クリティカルシンキングを意識したプログラムとした。8回目より遠隔授業となったが、遠隔授業で対応できるように調整を行い、授業目標を到達できるように構成を考えた。
- ②講義を2コマ続けて実施することで、学習内容・進度にあわせた講義進行を行った。
- ③初年次セミナーⅠでの学生の意見を受けて文献カードの記載法や、学生が議論をとおして思考できるよう課題発見のためのシートなども改良した。
- ④グループテーマを新聞情報等から問を見だし、文献検索を行うように指導を行った。文献検索はCiNii、GoogleScholarの利用方法について説明を行った。
- ⑤対面授業が可能となったため、初回にアイスブレイクを取り入れ、グループ間の交流をはかった。
- ⑥DPにそった評価指標をオリエンテーションで明示した。学生はレポート作成、発表と段階に応じた自己評価を行い、自己の振り返りを行うことができたようにした。
- ⑦遠隔によるパワーポイントでの発表は、全員の原稿やパワーポイントを1つにまとめることで、内容、スライドを統一する必要性について学ぶ機会とした。発表時の評価は、担当者5名に看護学科教員1名を加えた計6名で行った。複数の教員による評価で、より客観的な評価を行うようにした。
- ⑧最終日には、優秀賞の発表と他者評価をとおして自己の振り返りを行う時間を設けた。

授業科目名【成人急性期看護方法論】後期15コマ、30時間（8コマ担当）7回目より遠隔授業

成人急性期看護方法論は、2年次開講科目である。2人で講義を担当した。本科目はこれまでに学んだ形態機能学、疾病論、成人老年看護概論などの科目と関連する科目である。学生には、オリエンテーション時に既習の科目の復習を行い、講義に臨むように説明を行った。急性期看護の総論を3コマとした。手術を受ける患者の身体侵襲時の生体反応についての解説、手術を受ける患者の心理面について事例をもとに解説を行った。他に呼吸器、乳腺外科疾患で手術を受ける患者の看護、脳神経外科の術後の管理について解説を行い、視覚的・感覚的に学習する機会を取り入れた。また、3年前期につながるように看護過程の展開に必要な知識について考えるような講義展開を取り入れた。新たに得た知識を用いることで、患者理解に

繋がることを実感できるようにした。

授業科目名【成人急性期看護学実習】

- ①成人急性期看護学実習は本来 2 週間の病棟実習と 3 週目に ICU および手術室見学実習の 3 週間実習である。今年度は学内実習（対面実習、一部遠隔実習）となったため、プログラムを検討し、実習目的が達成できる内容に変更した。
- ②周術期の理解を深めるために、性、年齢、術式、既往歴の違いによる術後経過の変化および予測する必要性を学べるようにした。さらに身体的な面だけではなく、ボディイメージの変化など心理面を理解するねらいとして、乳がん事例 4 例、肺がん事例 4 例を準備した。
- ③周術期にある模擬患者および模擬電子カルテを用いて、臨床での実習に近づけて看護展開を行うようにした。
- ④術前の看護（入退院センターから入院後の術前処置・訓練、術前準備、不安の援助）、術当日の看護、術直後の看護、回復へ向けた看護（離床、清潔援助、退院指導）と周術期の時期を考えながら学ぶことができるようにした。
- ⑤DVD 視聴、模擬患者に使用する物品は実際に臨床で使用されているものを使用し、イメージ化を図り、使用方法の修得を目指した。

授業科目名【救急・クリティカルケア看護学演習】後期 15 コマ 30 時間 遠隔授業、一部対面授業

2 名の急性期の教員で遠隔と一部対面での演習を行った。演習では救急・クリティカルケア領域における倫理的な問題についてグループワーク、発表を行い看護師のジレンマについて考える機会とした。また、集中ケア認定看護師による実際の人工呼吸器を用いた説明や挿管の看護を対面授業で行った。

学 会 に お け る 活 動

| 所属学会等の名称 | 役職名等（任期） | 加入時期 |
|------------|----------|--------------------|
| 日本看護協会会員 | | 1987 年 4 月～（現在に至る） |
| 日本公衆衛生学会会員 | | 1995 年 5 月～（現在に至る） |
| 日本看護研究学会会員 | | 2004 年 7 月～（現在に至る） |
| 日本看護科学学会会員 | | 2004 年 7 月～（現在に至る） |
| 日本看護技術員 | | 2011 年 4 月～（現在に至る） |
| 日本運動器看護学会員 | | 2015 年 2 月～（現在に至る） |

2020 年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概 要 |
|--|---------|-----------|---------------------|-----------------|
| (著書) | | | | |
| (学術論文) | | | | |
| (翻訳) | | | | |
| (学会発表) 「食と健康」に関する地域密着型食育活動の展開 ～大学連携講座 2019 年度事業報告～ | 共 | 2020.9.2 | 第 67 回日本栄養改善学会総会 | 永田純美、田中貴絵、石井愛子他 |

| 2020年度 研究業績等に関する事項 | | | | |
|---|---------|-----------|---------------------|-------------------|
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| 「食と健康」に関する地域密着型食育活動の展開 ～参加回数が食嗜好および生活習慣改善に及ぼす影響～ | 共 | 2020.9.2 | 第67回日本栄養改善学会総会 | 田中貴絵、石井愛子、手嶋奈津子 他 |

| 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む） | | | |
|--|------|--------------------|-----------------|
| (1) 共同研究 | | | |
| 研究題目 | 交付団体 | 研究者 ○代表者（）内は学外者 | 交付決定額 (単位：円) |
| 人生100年時代を健康に豊かに生きるための地域貢献活動の展開～他職種連携による食育推進～ | | 近江雅代 | 1,278,000円 |

| 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む） | | | |
|---------------------------------|------|-----------------|----|
| (2) 個人研究 | | | |
| 研究題目 | 交付団体 | 交付決定額 (単位：円) | 備考 |
| | | | |

| 社会における活動等 | | |
|--------------------|------|-----|
| 団体・委員会等の名称 (内容) | 役職名等 | 任期等 |
| | | |

| 学内における活動等（役職、委員、学生支援など） |
|--|
| 学生委員：2020.4.1～2021.3.31 学科教務：2020.4.1～2021.3.31 4年生（ゼミ）アドバイザー：2020.4.1～2021.3.31 |